

## (株)Season 代表取締役

## 久保世智さん

## 明日へ向かって駆ける

## 農業法人の経営者は語る

「私たちの特徴はワーキングホリデーを活用した農業。農業の人手を求められる方々に人材を紹介していきいたい」と話すのは、福知山市三和町の(株)Season代表取締役の久保世智さん(38)。

同町友測にある山あいの75㏄の農地で、京のブランド野菜、万願寺甘とうを露地と3棟のビニールハウスで栽培している。万願寺甘とうの生産は、JAの全量買い取りで収入の見通しが立てられることや、京野菜のブランドとして単価が良いこと、病気に強く収穫期も長いので、現金収入が得られる時期が長いことから栽培を決めた。

農業経営で一番の課題が人手不足と考える久保さん。それを解決する方策として考えたのが、ワーキングホリデーを利用した農業経営だった。4月から11月ごろまでの期間、これまで

の3年間で、主に台湾と香港から30人に働いてもらったという。しかし、ワーキングホリデーを活用する上での問題は1年間の就労ビザで来日するため、毎年人が変わり、経験

が引き継がれないこと。久保さんは「出荷時の選別の基準が甘くなりがち。これまでは経営規模の拡大に力を入れていたが、一定の規模に到達したので、これからは品質向上に集中したい。選

別時に基準のばらつきがないよう、経験が少なくとも簡単な的確な選別ができるような基準ス

ケールの開発や台湾語でのマニュアルを作成するなど工夫をして」と話す。また、昨年は天候不順や極端な暑さによる水分不足、病気の発生で収穫量が大きく落ちるなど大変な年になった。悪

夢のような年だったが、この苦い経験を教訓として、対策を考え改善していけば、まだまだ万願寺甘とうの生産拡大の伸びしろはある」とあくまで前向きだ。

新しい農業経営の形態の確立を目指す久保さんは「新しいことにチャレンジする、わくわくを感じている」と農業経営の新たなビジネスモデルとなるような挑戦を続ける。

将来的に、農業人材の紹介業も念頭にあり「ワーキングホリデーの人材活用で得たノウハウを生かして、この地域の農業経営者が人手不足で悩むことがないようにしたい」と、地域の活性化への貢献も考える。

▲万願寺甘とうを定植したビニールハウスで  
(左から久保さん、ワーキングホリデーで働くルルさんとリンさん、松村専務)



## 農業人材紹介へ意欲

■法人概要 2017年1月設立。役員3人、パートタイマー14人。経営面積75㏄(万願寺甘とうを露地60㏄、ビニールハウス15㏄)。農業機械1トラクター1台、畝形成機、ビニールハウス3棟。

■法人所在地 福知山市三和町辻755の1。(電)0773(45)8368。HPアドレス 11http://season-vege.com/